

令和2年度自己評価アンケート
社会福祉法人ほどがや ゆめっこくらぶ

職員による自己評価

- ・基本的にコロナの影響によって活動の幅や内容に制限が掛かったものになってしまった。
- ・会議を設けにくい環境で支援についての話し合いが減ってしまった。
- ・安全面の配慮によって面談を書類にて行なう等今までのような連携を家族と行う事ができなかった。
- ・家族との面談が行なえなかった分、計画相談やカンファレンスなどを事業所間ではオンラインで行なう事で情報共有を図れた。
- ・活動においては公園などの活動や夏休み期間は活動ホーム屋上のビニールプールを利用して安全面に配慮しながら活動を行なうことができた。

保護者による評価

- ・子どもが落ち着いて過ごすことができれば特にプログラムに必要ない。
- ・スタッフの人数が足りないのか同性介助が徹底されていない。
- ・放デイに障害のない子供と共に活動する事は特に求めている。(2名)
- ・苦情についての対応は経験が無いのでわからない。
- ・育児などに関して貴重な助言をもらっている。
- ・父母会などコロナ禍でもあるので集まって何か・・・は最小限でよいです。
- ・子どもは前夜から予定を言って楽しみにしている。
- ・とても満足している



事業所内での分析

共通点

- ・バリアフリー化がなされていない。
- ・プログラム(取り組み)については必要な利用者に対してのみでいいと考えている。
- ・健全児との交流についての企画がなされていない。

相違点

- ・同性介助に関して適切な対応を心がけているが送迎に関しては完全に同性介助を行なう事はできていない。
- ・マニュアルなどが作成されていても保護者に対しての発信が正しく行なわれていないため認識してもらえていない。

事業所の強み	事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・職員配置が手厚いため臨機応変に日課を組む事ができ、変更を行なう事ができる。 ・法人内に多くの事業所が併設されている事で家族に提案やアドバイスをすることができる。 ・法人内での取り組みを反映する事ができる為対応マニュアル化されたものが多い。 ・本人支援の為積極的に学校とは話をしたり、計画相談やカンファレンスに参加している。 ・児童支援の事業を長年（14年目）行なっているため役所や学校との結びつきができていて連携が行なえている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化および耐震化。 ・ハード面に改善（クールダウンできる部屋） ・家族との連携（コロナなどで面談ができない際の他の手段の確立） ・非常時の対応などのマニュアルなどの説明や開示の徹底。 ・利用者自身の意見を尊重し活動しているため内容が固定化されてしまっている。

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面に関して現状改善は難しい面が多いため移転を含め検討していく。 ・感染症に対してより一層の安全な取り組みの確立。 ・現状、個々の希望に応えた形での対応によって活動内容が固定化されてしまっているため利用者が楽しめる日課の提供。 ・個別支援に対してのレベル向上のため職員研修の拡充。 ・職員間の支援方法の拡充及び連携方法の確立。

アンケート配布数	アンケート回収数	回収率
23	14	61%